

## 死亡災害発生状況報告（5-1 確報）

発生日時	令和5年8月30日（水）22時15分頃			天候	曇り			
港名	横浜港	業種区分	港湾荷役業B		港湾荷役業以外B'			
事業場名	_____			規模	377人			
事業場所在地	横浜市							
発生場所	南本牧埠頭内MC1・2バース (横浜市中区)		区分	港湾A 港湾以外A'				
被災者氏名	_____		性別	男	年齢	53歳	経験年数	33年
被災の程度	死亡		職種	運転者		雇用形態	常用	
作業の名称	コンテナ荷役作業		作業区分	港湾作業C 港作業以外C'				
労災保険適用業種	港湾貨物取扱事業		沿岸荷役業		船内荷役業			
事故の型	激突（3）		起因物	トラック（221）				
使用機械等	トレーラー		本船揚貨装置段取り		なし			
発生状況	<p>① 20時45分頃より、南本牧埠頭MC-3着岸本船内航船「きそ」への荷役を開始した。</p> <p>② 被災者はトレーラーヘッド36号車（以下「ヘッド36号車」という。）に乗務し、MC-2バース2A（A95ベイ）から40フィートハイキューブ実入りコンテナを積み、内航船「きそ」へ横持のため、MC-1・2バースバックリーチを直進した。</p> <p>③ MC-3バース側へ向かうために右折し、連絡通路へ進入しようとしたところ、コンテナ及びヘッド36号車が左側に横転し、フェンスとコンクリート支柱2本に衝突した。</p> <p>④ 22時30分頃、消防及び救急隊が現場に到着し、被災者の救出後、病院に搬送した。</p> <p>⑤ 8月31日、0時00分に被災者の死亡が確認された。</p> <p>※コンテナ 総重量：27.519トン 重量：23.819トン 中身：ベニヤ板（合板）22C/R T（1C/R T当たり約1.100トン）</p>							
考えられる原因	<p>① 被災者が運転するヘッド36号車が、MC-1・2バースバックリーチを直進してからMC-3バースに向かう際、右折旋回時における曲率半径が小さくなっていたこと。（大きく旋回しなかったこと）</p> <p>② 被災者が運転するヘッド36号車の速度が早かったこと。（ブレーキを早めにはけなかったこと）</p> <p>③ コンテナ内の貨物が偏荷重を起こしやすい貨物であったため、遠心力が増加した可能性があること。</p>							
考えられる対策	<p>① MC-1・2バースバックリーチでのトレーラーヘッドの運転について、水樽等で進行動線を確認し曲率半径を大きくするとともに、夜間の視認向上のため水樽に工事灯を取付け走行路に徐行、進行方向の矢印等を路面にペイント表示すること。</p> <p>② MC-1・2バースバックリーチでのトレーラーヘッドの運転者に、減速（徐行）を促すため、進入経路を狭めるとともに、トレーラーヘッド運転時の構内スピードを抑制するため、ドライブレコーダーを導入すること。</p>							

